

動植物園の仕事はどんなのですか？

「動物園で働きたい！」と佐世保にやって来た二人の飼育員に、動植物園の仕事やその魅力などを聞きました。



飼育員歴2年目（東京都新宿区出身）
石井 淳子 さん

身近に動植物園があることは幸せ

今は、ラクダ、ラマ、シマウマ、シロオリックスを担当しています。動物の飼育の仕事は、一日では変化は分かりませんが、年間を通してみると、動物のわたしに対する反応が良くなったり、動物の変化を読み取れるようになっていたりすることに気がきます。最初は、ラクダのピリカが何を思っているのかが分からず、追い回されることが多かったのですが、だんだんと彼女の主張が読み取れるようになってきました。動物は言葉が話せませんが、行動などでサインを発信してきます。基本的な知識はハンドブックなどで学べますが、毎日接する動物に教えられることが多いです。わたしにとっては動物が教科書です。動物と向き合っていて、その動物と一緒に最善の飼

育方法を見つけていくことが、飼育の仕事の楽しいところなんです。

市亜熱帯動植物園の魅力は、動物園と植物園がいい具合に一体化され、ゆっくりとした時間の流れを感じることができるところ。また、テナガザルだけでも3種類飼育しているなど、同規模の動物園に比べて動物の種類が多く、たくさんの動物のことを知ることができるところです。

わたしが生まれ育ったまちには動物園がありませんでした。中心市街地から車で10分程の場所に動植物園があるなんて、佐世保は恵まれていて、うらやましいと思います。

市民の皆さんにもっと愛される動植物園にしたいと、職員同士でよく意見交換をしています。市民の皆さんも、憩いの場所として、また動物の生態学習などの場として、動植物園をどんどん活用してください。

ラクダのノビタとピリカは園内にある木の葉が大好き。石井さんが取ってきた木の葉をおいしそうに食べます。

エサは、乾燥度合いなどが違う3種類の干草の中から、動物の好みや、その日の体調に合わせて選んで与えます。

毎朝、一番先に行うのは健康チェック。動物の様子や毛の状態などを見て体調を確認します。繁殖が期待されているラクダは発情の状態の確認も。

生まれたときから飼育しているラマのキューちゃん（写真右）は、石井さんのことを母親だと思っているようです。舎内の清掃中も石井さんに寄り添って離れません。

シロオリックス（ウシ科）は、アフリカ北部に生息し、生息数が少ないことから国際保護動物に指定されています。後ろに大きく湾曲した角が特徴で、長さは1.5mにもなります。

担当の動物の案内板は石井さんの手作り。見学者に楽しんでもらえるように、展示の工夫や企画を考えています。バレンタインデーにちなんで行った「ラブラブ人気カップル投票」は石井さんのアイデア。ちなみに第1位は、レッサーパンダの海とリンリンでした。

ゾウのハナ子の大好物は「おから」。ハナ子は丸めたおからを崩さないように、鼻で優しく取って食べるそうです。

動物の体調に合わせてエサを用意します。高齢の動物には、野菜を蒸して与えることも。

ゾウは、一日60kgのフンをするため獣舎の清掃は重労働です。しかし、フンは動物の体調を知る重要な手がかりになるので、手を抜けません。

飼育員の指示で後ろ足を上げるハナ子。足の裏に異物が刺さっていないか確認するために行います。大島さんは経験が浅いため、ハナ子に指示を出すのは、ベテラン飼育員です。

昼間はごろごろと寝ているイメージが強いクマも、朝一番は、エサを探して機敏に走り回ります。

クマがけんかしないように、分散してエサを置く大島さん。タイヤの中にもエサを隠します。

「お腹すいたよ～」と大島さんにエサをねだるハナ子。ハナ子は鼻を使って、白菜などの葉も一枚一枚器用にはいで食べます。エサを食べる様子も観察してみてくださいね。



飼育員歴3年目（福岡県北九州市出身）
大島 るみ さん

園内の動物を通して野生動物への関心も深めてほしい

ゾウ、クマ、ライオン、マントヒヒを担当して2年になります。働き始めたころは、ウサギなどの小動物を担当していました。今は直接触れることのできない間接飼育の動物ばかりなので、寂しさを感じることもあります。

子どものころから動物が好きで、獣医師として動物園で働くのが夢でした。でも、今は、飼育員としての仕事に楽しさを感じています。獣医師は、具合が悪くなった動物を診療することが仕事ですが、飼育員は、動物が病気にならないように予防することが仕事です。常に動物と接して状態を見て、動物が健康でいられるようにするこの仕事にやりがいを感じています。

飼育員は、動物と信頼関係を築くことが大切です。ゾウは、飼育員を信頼するようになるまでに10年はかかると言われていました。ゾウは体が大きいだけに、油断をするとけがをしたり、命を落としたりする危険があります。深い愛情を注ぎながらも常に緊張感を持って接しています。

市亜熱帯動植物園の魅力は、季節ごとに咲く色鮮やかな花。また、動物の性格がとても良く、見学者に愛嬌を振りまいてくれるところなんです。最近では、野生で動物の数が減って絶滅の危機にあったり、逆に数が増えすぎたり、動物が人間に危害を加えたり、自然界のバランスが崩れて人間と動物の関係が悪くなっています。来園者の皆さんには、園内の動物を通して、野生の動物が置かれている現状にも関心を持ってほしいと思います。